

Project	地域協働専攻 国際協働グループ
	<p style="text-align: center;">外国にルーツを持つ児童・生徒への 日本語学習支援プロジェクト</p>
A07	
メンバー	[学 生] 山中怜奈/木田愛佳/佐橋優雪/佐藤ひなた/藤岡真弓 [担当教員] 佐藤香織

【背景】

函館市の小中学校・高等学校には、様々な理由により来日した日本語指導を必要としている外国籍児童・生徒が在籍している。

【目的】

学習者(生徒)の日本語能力の向上を目指し、学習者が学校で受ける授業のサポートを行うこと。また、支援実施者が日本語教育実践し、地域の教育機関・日本語支援員との連携を図ること。

【概要】

主に、F中学校とK高校に在籍する外国にルーツを持つ生徒に日本語学習支援を行った。F中学校では、Nさんに対し数学・理科の時間は取り出し支援、それ以外の時間は入り込み支援を行った。後期からは、取り出し支援の際に行う教材を作成した。K高校では、現代国語・公共・保健の時間に入り込み支援を行った。

【プロセスと成果】

4月に、日本語学習支援に関するシンポジウムの報告書を読み、事前学習を行った。そこで、日本語学習支援における課題や留意点について学んだ。加えて、それぞれ意見や感想を共有し、さらに学びを深めた。初めは、もともと支援に行っていた上級生の付き添い支援の様子を見学した。5月からF中学校、K高校、S高校への支援活動を開始した。

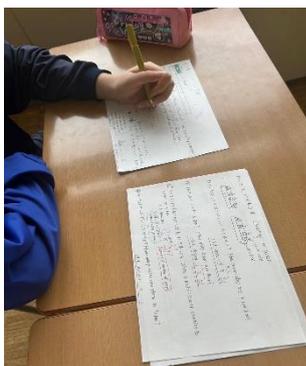
10月からは、引き続き支援活動を行うとともに、対象生徒の習熟度に合わせた教材づくりを行った。

【F中学校、Nさんの支援】

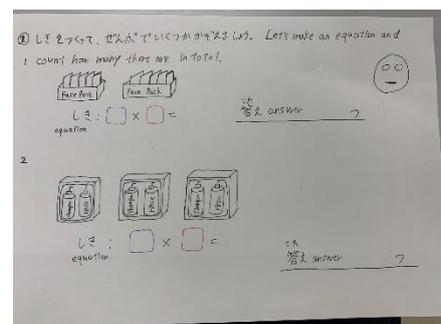
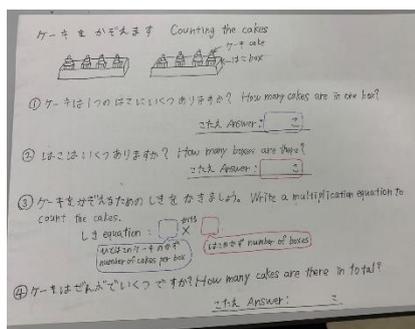
教室の中に支援者が入り込み、難しい言葉や分からない言葉をやさしい日本語や英語、時にはイラストを用いて授業内容を解説した。入り込み支援を行った授業の内容は、所々ではあるが理解できていた。また、先生に指名された箇所を読むことができるなど、授業に参加できる機会も増えた。

取り出し支援では、個別に取り出し、日本語での会話練習やカタカナのカルタ、算数の自作教材を実施した。家族のことや日常生活、出身国について積極的に話を広げようとする姿勢が見られた。算数の自作教材を実施した際には、かけ算のやり方や考え方を段階を踏んで説明すると理解してくれた。イラストから式を作る練習で、かけ算の理解に繋がられた。

「自作教材をしている様子」



「自作教材(かけ算)」



### 【K 高校、S さんの支援】

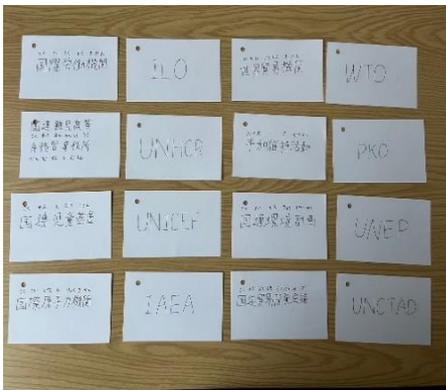
支援開始時に比べ、格段に日本語能力が向上した。特に漢字の読み方・意味に関して、支援者の説明なしで理解できるものが増えた。高校の教師も英訳のついたプリントの用意など、S さんが授業の内容を理解しやすいように協力してくださっている。

日本語能力の向上に伴い、自信を持って発言をする機会が増えた。教師も S さんを他の生徒同様に指名するようになり、授業に参加できるようになった。

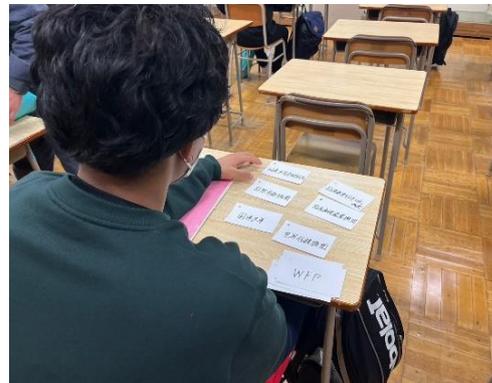
また、教材の作成も行った。公共の授業では、重要な単語とその意味が対になっているかるた形式のカードを作成し、支援の中で活用した。かるた形式で重要な単語の確認を行ったため、集中して学習を行うことができ、単語の意味の定着に役立った。加えて、漢字に読み仮名を振ったため、正しい読み方を学習させることができた。

今後の課題として、現時点では漢字を習得している段階であり、同音異義語や音読みと訓読みの使い分けができず、漢字の多い文章になると読み方・意味の理解が困難であるという点が挙げられる(特に現代国語の読解問題)。したがって、今後は文章の意味理解のための支援方法を模索していく必要がある。

「自作教材(公共)」



「自作教材をしている様子」



### 【総括と反省・今後の課題】

1年を通して支援活動に携わり、学習者(生徒)の日本語力向上が見られた。

今後は、日本語学習支援のみに留まらず、教科学習の支援も充実させていけるようにしたい。課題として、学習者の苦手分野を教科ごとに把握し、必要に応じて教材を作成したり、新たな支援方法を模索し実践したりする必要があると感じた。また、学校の教師や他の教育機関とも連携し、支援が無くとも児童・生徒が自立した学校生活を送れるよう促すための支援に移行する必要もある。

### 【地域からの評価】

日本語学習支援の活動を通して、連携機関の方から、このようなコメントをいただいた。  
「子供達にとっては年の近い学生さんたちとの触れ合いは多面的にも意義深く、自分の将来のロールモデルにもなっているのではないかと感じています。引き続きの活動に期待しております。」

また、高校の先生からもコメントをいただいた。  
「大学生の入り込み支援は高等学校の必修科目の習得にとって絶対必要な対応です。通常授業の前後での教科用語・表現の事前準備を綿密に行うことで生徒が学習参加に前向きになり大変有効であったと思います。また、教材の工夫や日本語のインプットとアウトプットの活動が工夫されていた点も大変良かったと思います。」

### 【その他】

#### 年間スケジュール

4月	日本語学習支援について事前学習
5月～	F中学校支援 K高校支援 S高校支援
7月	中間発表会
10月～	自作教材 作成(F中学校・K高校)
2月	成果発表会 成果報告書作成